

令和7年11月13日 令和7年度総合教育会議

1. 開催の日時及び場所

令和7年11月13日（木）18:00～19:05

市役所本庁 市民交流棟 会議室A・B

2. 出席委員の氏名

篠崎 圭二 市長

野口 政吾 教育長

田村賢二郎 委員

川崎 裕美 委員

重村 美帆 委員

澤田 英人 委員

3. その他出席した者

濱原教育部長、大石教育総務課長、島谷教育総務副課長、上田教育総務係長、
叶屋学校教育課長、大山学校教育課長同格

4. 傍聴者 なし

5. 要 旨

大石教育総務課長：定刻となりましたので、令和7年度総合教育会議を開催します。この総合教育会議は、地方教育行政法の改正に伴い、市長と教育長、教育委員会委員がメンバーとなり、意思疎通を図りながら本市の教育の課題等を共有し、より一層民意を反映した教育行政を推進していくために、平成27年度から設置されたものです。それでは、議題に入りますが会議の進行は、市長が務めることとなっておりますので、今後の進行については、市長にお願いします。

篠崎市長：宇部市長の篠崎でございます。ただいまから、令和7年度総合教育会議を始めます。議題は、「学校教育改革プロジェクトについて」となります。それでは、事務局の説明をお願いします。

叶屋学校教育課長：学校教育改革プロジェクトについてパワーポイントを用いて説明。

篠崎市長：ありがとうございました。事務局より、プロジェクトの内容について説明がありましたが、今後、この内容についての皆様方のお考えや、教職員・子どもたちにとって有意義なものにするために必要なことなどを伺いたいと思います。教育委員の意見を受けて最後に教育長からの発言をいただく予定です。

篠崎市長：それでは澤田委員から意見をお願いいたします。

澤田委員：学校教育改革プロジェクトということについてですが、ウェルビーイングな学校を作り上げていく上で、実によく考えられたプロジェクトだと思いました。3点ほど私の所感を述べさせていただきたいと思います。まず1点目ですが、全体の構造が非常にわかりやすいプロジェクトだと思います。先ほど課長のご説明もありましたが、自己肯定感を上げる、地域全員で学校を作る、これが目指す姿ですが、現状と目指す姿のギャップがあります。このギャップをどうやって埋めるかというのが4つのプロジェクトで示されています。これが、5

分短縮授業＋補充学習、2つ目が単元内自由進度学習、3つ目がスクールワイドPBS、4つ目がチーム担任制。非常にこの構造が分かり易いです。これを示す学校、地域、児童がプロジェクトに沿ってやっていけばウェルビーイングな学校になるという期待感を持って取り組むことができると感じています。2点目ですが、改革の進め方が素敵だと思いました。このプロジェクトを選ぶのが学校選択に委ねられており、各学校おそらく過去の学校の課題を洗い出しながら、どのプロジェクトでウェルビーイングな学校を目指していこうかと考えていると思います。特に学校の主体性、つまり学校が自分で自己選択し、このプロジェクトで行くぞと、職員、地域、子どもを含めて、自分たちの学校を作り上げていく方法は、キャリア教育の構造と似ており、分かり易く、皆が納得できる進め方だと思います。以前であれば、文科省からトップダウンのように教育委員会におりてきて進めていましたが、ボトムアップで取組を進めることができる。ここが素晴らしいと思いました。3点目ですが、この4つのプロジェクトが、学校が課題を解決する上で非常に合致したプロジェクトだと思いました。最初に5分短縮授業＋補充学習についてですが、5分短縮しますと6時間授業で考えますと、5×6時間で30分の枠ができます。このできた時間について文科省は、学校運営に任せるということでありますが、宇部市はこれを学力、補充学習に特化されて取り組んでいます。これを学校に聞いてみますと、子どもは、授業中に分からなかったことを、その日のうちに先生に確認することができて即解決できる。また、分からなかったことを学び合い助け合うことができる。というような声が学校から聞こえて参りました。授業中に本来ならば徹底して、教えたことを反復学習に持っていけば、ベストですがなかなかそこまで行けません。その反復練習を、補充学習時間に徹底できる所は素晴らしいと思います。教えてもらったその日に学び直しができることで、学力向上に繋がると思いますし、学び合いによって子ども同士が関わることができ、また、いろんな人が関わることによって子どもの自己肯定感などがアップする、良いことだらけの取組だと思います。次に、単元内自由進度学習についてです。私も単元内自由進度学習に見学に行きましたが、やらされる学習ではなくやりたい学習になっていると感じました。どうやったら自分にとって最適な学び方ができるのかといった、学び方を学ぶという要素があり、これは自己教育力の育成に繋がると思います。ここまで来ると、子どもが学校から離れて社会に出て行ったときに、課題を解決してくためにどうしたら良いかが分かるようになると思います。何を誰とどのようにしたら良いかを学んだ子どもたちというのは、非常に生きる力が育っていくと感じた次第です。そして、スクールワイドPBSについてですが、これは問題行動を減らすということに今まで教員は一生懸命取り組んでいたのですが、望ましい行動を増やすという発想の転換がありました。ごく当たり前のことですが、当たり前なことを当たり前にやっていく、その当たり前を教員や友達が見つけて当たり前に覚えていく。そして正のスパイラルがどんどんどんどん回っていくといった学校もありました。結果と

して、問題行動が減ってきて、望ましい行動が増えてくる。そうするとウェルビーイングな学校に当然なっていくと思いますし、この学校の取組をずっと続けていただきたいと思います。最後に、チーム担任制についてですが、チーム担任制の目玉は、学級王国を無くし、教科担任制による運営方法です。これは前から言われていまして、とても良いことだと思います。多くの先生が多くの子どもを見て良さを引き出し、先生においては1つの教材資料で複数の授業ができる授業改革にもつながるウィンウィンな改革です。メリットが多にある取組だと思います。いずれの取組も、ウェルビーイングな学校にするための、学校教育改革プロジェクトの柱になると感じました。このプロジェクトをもっと進めるために、校長会や教頭会にて少し時間をとっていただきまして、情報交換や協議の場を持たれるとさらに良いと思います。また、4つの取組に、ワールドカフェ方式でこの協議の場を持たれると、自分の一番聞きたい所に行って、他校の良さを知り合う、まさに教員の学び合いができだと思います。この4つの改革を進めていけば、きっと宇部市の学校は変わっていくと思いますので、大変期待しています。以上です。

篠崎市長：ありがとうございました。校長会などで協議の場を持つ意見など、非常にありがたいご意見だと思います。続いて川崎委員お願いします。

川崎委員：このテーマをいただいて、この場でどう話せばよいかをととても考えていて、今までお世話になった校長先生等を頼って様々なお話を聞かせていただきました。どの校長先生も惜しみなく、自信満々にたくさんお話を聞かせていただき、どの学校も誇りを持って、この改革を進めていっていると思いましたので、その感想も含めてお話をさせていただきたいと思います。どの企業でも生産性の向上のために、業務の効率化を図るということには常に取り組んでいると思いますが、教員の皆さんも業務改革を一層進めていくために、この改革が必要ということをしごく理解し、取り組んでいらっしゃるということを実感しました。4つの改革それぞれ令和7年の実施校は書いてあると思いますが、どの学校も推進しているとまではいきませんが、4つの改革を少しずつ取り組んでいらっしゃると思います。4つの改革が1つずつ単独のものではなく、すべてにおいて絡み合っていることが分かりました。まず1つ目に教育課程改革の補充学習ですが、担任任せにせず、様々な先生が関わりながら、補充学習を進めていて、チーム担任制とまではいきませんが、たくさんの先生方が関わり、いろんな目線で見ているということも工夫していました。他にもチーム担任制で、教科担当にすることにより、授業準備の負担を軽減して、先生たちが少し授業準備に関わる時間を減らすことができ、子どもたちと向き合う時間ができているということも言われていたので、相乗効果が生まれているのではと思っています。児童生徒のためだけではなくて、ウェルビーイングな学校ということで、学校全体がウェルビーイングでワークライフインテグレーションが実現できるのではないかと思います。改革してもすぐに成果が出るものではないと思っていましたが、スクールワイドPBSについては、離席数が減ったり、保健

室への出入数が半減していたり、児童アンケートでも自己肯定感が上がっているという結果が見られたりと、もうすでに目に見える変化が起きているようでした。児童の代表委員会で、こんな学校になったらいいとか、学校教育目標に近づくためにこんな取組が必要ではないかと、主体的に考えて、そこに先生が何度も価値づけしていくという良い流れになっていました。マトリックスといわれる表が作られていますが、それも学校教育目標に沿って考えられていて、みんなで同じ目線でいいことを見つけて、校内全体が素敵な行動でいっぱいにしようという雰囲気になっているというのも、若手教員の人材育成にも繋がっているということも聞きましたので、その部分でも効果的な取組だと思いました。先生との信頼関係ができていたり、自己肯定感が上がっていくことによって、学力もおのずと上がっていくと期待もできていると思いますので、力を入れて取り組んでいていただきたいと思います。校長先生方が少し心配されていたのが、今は上昇気流に乗って、いい雰囲気ができているものも、教員の異動により入れ替わりがあったりする中で、どのように継続していくかという所は、とても心配だということは言われていました。ですので、宇部市全体で早くこの取組が定着して、誰がどこに行っても大丈夫というふうになっていけばいいと思います。以上です。

篠 崎 市 長：最後に課題を言っていただいてありがとうございます。教員の入れ替わりについての課題への対応、これはしっかり考えなければいけないと思います。田村委員お願いします。

田 村 委 員：この4つの改革を改めて自分なりに勉強していたところですが、皆さん言われている通り、すばらしい取組だと思いますし、今後この取組が続くことで、宇部市は素晴らしい教育環境になっていくかなと、すごく期待して胸が躍るところです。その中で、それぞれにおいて述べさせていただきますと、少し違う視点からですが、5分短縮授業ですが、私も今月の11月中に2年生と3年生と5年生に歯磨き指導に入る予定です。授業時間が40分になると、実習になると時間的に少し厳しいと思います。ライオンが実施している全国小学生歯磨き大会というDVDも、45分授業に合わせてありますので、内容によっては授業時間を柔軟に対応していただきたいと思います。聞いたところでは、低学年だと45分より40分の方が集中力が続くとの話も聞きました。そういったメリットも聞いていますが、逆に中学生になると長時間の集中力がキープできないといけないとの側面もありますので、集中力というところが少し違うかもしれません、高校受験だと50分のテスト時間に集中する必要がありますので、その集中力を持続するトレーニングがもしかしたら必要になるのではと思いました。それで当然授業改善をしていく必要がある中で、ICT等を使っていくところでは、教員間で差が出ないように、しっかり教員の方々もしっかり勉強をしていただきたいと思います。また、時間割を見ると、部活のところが短いところだと45分しか取れないようになっており、これだと着替えてグラウンドに行って、準備運動して少し活動すると、すぐ終わりになってしまいま

すので、子どもたちのモチベーションが下がる懸念もあり、部活時間にも柔軟に対応していただけるとなおいと思いました。続いてチーム担任制ですが、様々な先生の授業を受けることにより、子どもたちがいろんな考え方に触れることができるととても良いと思いますが、先生方の間での責任の所在が曖昧になるようなことは、絶対にあってはいけないと思います。当然そこで情報の共有が必須になりますが、多くの担任をすることになるほど、他の授業にも参入することになり、広く浅くの授業になりがちなところを、広く深くの内容をしっかりやっていかなければいけないというところで、もしかしたら担任の先生方の負担増にも繋がる場所もあるかもしれません。今後、情報共有の時間に、5分短縮した時間を充てるとするのは、考え方としてはあると思いますし、その情報共有にもA I等を使ってICT化により何か上手くまとめるという方法もあるようなことも聞きましたので、その辺りも考えていただきたいと思います。それと、単元内自由進度学習ですが、どのように学習するのかが少し分かりづらく、もちろん教育のプロではないので、何とも言えない部分もありますが、やはり授業の進度に遅れている子どもをボトムアップしていくことがとても大切なところだと思いますので、そこでもやはりICTの効果的な運用が必須になると思いますので、学び合いをしながら、しっかり先に進めていくことが必要だと思います。授業内では、時間が短くなると学び合いが難しくなるケースもありますので、場合によっては授業の中で学び合いを入れる研究をしていただいて、そこでもしっかり子どもたちにやる気を持たせ続ける必要があります。勉強中に分からないことが分かったということだけで褒めるべきだし、これはPBSにも繋がりますが、それを理解できたというところも、褒めてあげたり、学び合いの場面では、それを教えることができたという子にもすごく褒めてあげるといったことをしながら、充実した学習になっていけばいいと思います。それと生徒指導改革ですが、田布施西の事例を拝見しましたが、本当に素晴らしいなと思いました。スクールPBSというプロジェクトになると、さらにパワーアップした感じで、自己肯定感や承認欲求を高めていけるものになっていくと思います。岬小学校でもこの改革を重点的にやると、児童も落ち着いてきており、もうすでに効果が出ていると聞いています。ポイント制にして、ポイントがたまると校長先生と給食が食べられるような制度にしたり、学級通信などでこんな良いことがありましたとか、下駄箱にあるテレビでもこんな良いことみんなやってますなどの取組をどんどん紹介していたりして、すぐに効果が出ていると思いました。でもそれも学校だからやっている部分が、もしかしたらあるのではないかと気になるころではあります。学校に入った途端に、決まりを守らないといけないとスイッチがポンッと入って、そこで一生懸命やる。学校から1歩出て先生から離れるとやらなくなってしまうことになっては絶対いけないですし、家庭でも地域でもその取組が続かなければいけないと思います。地域と連携してやる事もとても大切で、地域の中で先生でもない人から褒められると、本当にいいことだと理解してもらえるところもあると

思うので、子どもたちをどんどん地域に連れ出すような形になっていけば、そのような機会も増えていいかなと思います。町内清掃や道普請、地域の運動会やお祭り、文化祭などいろんな行事がありますので、どんどん子どもたちが出てきて、大人たちがみんなでその子どもたちを褒めるという事が宇部市全体に広がって行って、宇部市全体で大人みんなが子どもたちを育てる。そのようなPBSになって欲しいと思います。以上です。

篠崎市長：ありがとうございました。部活動の件につきまして、少しご意見がありました。市としての方針で考えていますのが、もう今年度からそうですが、基本的に部活動は、市で進めだてをしていきます。教育現場からは、いい意味で切り離して、連携できるところはしっかりと連携していく。担い手は地域の皆様、様々なスポーツ団体等でやっていきますが、もちろんこれで学校側からすべて切り離されるというわけではありません。学校の施設等も使用させていただきます。教員の皆さんの働き方改革により、部活動が40分では足りないようなご意見いただきます。そのとき私がきちんと説明しているのが、それ以上働いてもらったら先生たちが倒れてしまいます。今までそうだったのが、実はそれが間違っていましたと。これは各地区の市政懇談会で、2年前には特に言われましたが、そこはしっかりと言うようにしています。私も中学生の子どもがいますので、保護者からそういった声がありますが、そうではなくて、今学校でできる範囲でやっていただく、ただし試合の前などは先生たちに柔軟に対応していただいて、その場合は1時間2時間の延長をしていただいておりますが、そういう状況をしっかりと改善していかなければいけませんので、しっかりと部活動にこれから向き合えるように、来年度から具体的にどんどん地域団体を巻き込んでいきたいと思います。そこでまたご意見いただきたいと思います。スクールPBSは、このような良い輪が広がって欲しいと思います。ありがとうございました。重村委員お願いします。

重村委員：私はこの4つの改革を見ていく中で、大きく2つに分けられるという視点で考えてみました。まずは、児童生徒が自分で自分の学びをどう組み立てていくかというところで、5分短縮授業プラス補充学習と、単元内自由進度学習があると考えています。この2つの教育課程改革は、学習者自身が学習を振り返って、繰り返し腑に落ちる時間として活用できると良いと感じています。自分の子にも小学生と中学生がいますが、学習についてよく質問してみますが、習っていないとかやっていないなどの言葉が出て、結局、自分で進めたり、自分で分からないことを分かろうとする姿勢が見えないというのが、親としては心配しています。学習が子ども自身の学びとして定着するためには、腑に落ちていく感覚、学びの中でそういう感覚がすごく重要だと考えていくと、やはりこの自分で自分の学びを決めていくことができるスタイルはすごく大切だと思います。そのために短縮された40分の中で、教科書を使った従来の授業をどのように組み立てていくかの対策が、絶対に抜け落ちてはいけないと思います。そこにプラスで、自分で学ぶ学び方をどう組み立てていくことができるように

なるか、その両立がないとこの改革はうまくいかないと思います。先ほど田村委員がおっしゃいましたが、分からないことが分かるようになる方法が、自由進捗学習や補充学習の中で、子どもたちが身につけていくことができる時間として作っていくことができれば、この改革の要になっていくと思います。2つ目が、スクールワイドPBSとチーム担任制は、協働的な体制の中で培われていく教育の質であると思いました。集団組織としての教員の資質向上となるためにこの2つが生かしていけると良いと思っていて、特に多様な子ども、それから保護者への対応が求められていく中で、教員の1人の力での限界があるので、業務をこなすだけでなく、質も付加していく必要はあると感じています。その中で、チーム担任制は1つのクラスを1人ではなく、学年全体を複数の教員で見っていく形はとても良いと思います。子どもの立場としても1年間ずっと同じ先生よりも、変わった方が望ましいと感じている子どもいると思うので、そのような中で複数の方が様々な場面で自分たちに関わってくれる体制は、すごく好ましいと思います。ただ1つ懸念しているのが、今回事例で上がっているローテーションが単なる交代になっていないかというのは危惧していて、ローテーションによるメリットデメリットは、はっきりと明確にしていく必要があるということと、複数人に関わるということは、何をどのように共有して、どこを協働していくのかを作っていく必要があります。そうしないと、単なる交代すればよいであるとか、この部分はこの人が得意だからこの人に任せておけばいいというような、新たな負荷が生まれてくる可能性があると思います。教員力を底上げしていくために得手・不得手は皆あると思いますが、不得手の部分を、教員自身が磨いていくためのチーム体制にしていかないと、質の向上の実現は難しいと考えました。これはスクールワイドPBSも同様の考え方をすると、教員が物事をとらえる視点を変えていく1つの方法だと思いますので、ふわふわ言葉等のネガティブな視点で見ていたものをポジティブに変換する活動の1つだと思いますので、それがこのチーム担任制と合わさって、どこを共有して、どういう形で子どもたちと接していくか共有できると素晴らしい改革になっていくと思います。最後に宇部市が目指される姿の中で、私が大切にしたいと思うのが、誰1人取り残さないという言葉です。これは子どもだけではなく、保護者や、そこに携わる教職員も含まれるとの意味で、誰1人取り残さない姿勢は大事にしたいと思っています。特に今、オンライン授業が受けられる環境の中で、学校にわざわざ行く意味づけがとても希薄になっていると思っています。学校でしか出会えない、学校でしか体験できない事があるというところをしっかりと子どもたち、保護者に伝え、特に教師を目指してもらいたい人たちにも、学校ってこんなに面白いところだよっていう姿を改革を通して、しっかりと伝えていくことがすごく大切だと思うと、この改革の意味がすごくあると期待しているところです。以上です。

篠崎市長：ありがとうございました。ローテーションの重要性についての意見をいただきました。本当にありがとうございます。それでは、委員の皆様のご意見を受けて、教育長からお願いします。

野口教育長：1年前からこのプロジェクトについては、教育委員の皆様にも少しずつ説明させていただきました。市長にも同様に、1年程度前に説明させていただき、ご意見・ご答申をいただきました。本年度がスタート年ですから、まだまだ課題が多いと思いますが、4つの改革の良さ、成果、課題についてはもう皆様からいただきましたので、私は違う視点から俯瞰的に見て話をさせていただきます。子どものウェルビーイングがもちろん第1優先です。ただ私は教育委員会の立場として、学校教員の意識改革。これが私の中で非常に強く思っているところです。残念ですが、学校は閉ざされた社会です。変わることを嫌う、変えることを好まない、そういう組織でもあります。昨今、例えばコミスク、行政、福祉等の連携で学校がどんどん開いてきました。教育DXで新しいことが始まりましたが、外的な要因の影響で学校が変わっていますけど、なかなか自分たちからは変えられない。この4つの改革は実はゼロ予算であり、予算がなくてもできる学校の内なる改革です。学校が自ら変わろうと改革していく、社会が変わっているのに学校が変わっていない。それは望ましくないので、それを変えてくのが本質的な改革であると私はそう思っています。こども基本法が令和5年にでき、宇部市は、昨年度こども計画が策定されて本年度から始まっています。こども計画は、何も子育て支援とか子育て環境だけでなく、学習環境の向上・充実とか、健康な心と体とか、子どもの多様性を認め合うとか、まさに子どもが主体となって子どもの意見を聞きながら、子どもの考えを尊重しながら進めていく。これはやはり、先ほど言った自由進度学習もそうですし、個人学習も子どもが自分で決めて、自分のペースで学んでいく。スクールワイドPBSも、子どもが生徒会や児童会でマトリックスを作って行うことによって、自分の自己肯定感を高めていく。このことが私はまず期待できていると思います。そして学校の組織力です。学校はご存じのように、役所や民間と違い、ピラミッド型、縦型社会ではなくて、鍋ぶた型社会と言われ、校長と教頭の下は全部担任の先生であるような状況です。悪い言葉で言うと、学校は、学級担任は個人事業主のような存在で、学校の大きな組織の中というよりも、個人で教科研究とか学級経営をしてきました。そのような状況を変える、学校という組織単位で、みんなで高めていくような組織にならないといけません。共通理解してくれる教員がいればいるほど学校の組織力が高まると思いますし、1人でも違う方向を向かないようにするために、学校全体でこの取組をしていかないといけないと思います。これが宇部市全体に広がっていくということを私は望んでいるところです。簡単ではありませんし、すぐにバラ色の未来は来ません。4年間という時間を設けたのは、急がず、課題を洗い出しながらゆっくりと、学校の実情に沿ったものにしていくとすることです。自分たちの学校で、自分たちで工夫して、アレンジして、それぞれの学校のやりやすいようにやって

創意工夫していただいて、少しずつですが、教育委員会もしっかりサポートして、この取組を進めていきたいと思います。

篠 崎 市 長：ありがとうございます。今、教育委員の皆様からはそれぞれの改革の課題やメリットデメリットをそれぞれ出していただきました。また、教育長からは学校教員の意識改革への課題をしっかりと聞かせていただきました。私からは市長という立場で、お話をさせていただきます。この4つの改革は、本当に良い取組であり、必ず進めていかなければいけないと思っていますが、必ずしも正解の取組はないと思います。その折々で子どもたちの社会状況は目まぐるしく変わってきています。保護者も社会も教育ツールも変わってきている状況です。どんどん社会が変わっていく中で、教育現場も変わっていかなければならない。そこで果敢に挑戦していただいているのが、この4つの改革だと思いますし、その上で、今回のこの4つの改革が進んだ上で、これからさらに進めていかなければいけないのが、4つの改革をしっかりと市民というステークホルダーに理解をしてもらって、協力していただかなければならないと思っています。最初に、今回のこの改革のステークホルダーとなる一番の関係者は子どもたちでありそして教員の皆様です。そしてその次、保護者の皆様にこの4つの改革が今進んでいることを知っている方がどれぐらいいるか。また、地域の人々がどれだけ知っているか、ここをまずしっかりと巻き込んでいかなければいけません。そして、その上で市民全体です。市民全体が宇部市はこういう教育改革を行っているということをしっかりと知っていただき、理解もしていただき、さらには協力者を増やしていく必要があると思いますので、このあたりを市長としてはしっかりとこの改革への理解を進めるための方策を考えていかなければいけないということを総合教育会議で認識できましたので、しっかりと課題として、教育委員会と一緒に連携しながら進めていきたいと思っています。引き続き、教育委員の皆様には貴重なご意見をお願いしたいと思っています。よろしくお願いいたします。それでは以上で、進行の方を事務局にお返ししたいと思います。

大石教育総務課長：委員の皆様、本日は大変ありがとうございました。以上をもちまして、令和7年度総合教育会議を終了いたします。お帰りの際にはお気をつけてお帰りください。ありがとうございました。